

Case 10

町田キャンパスが「子どもたちの学びの場」になった1日 子ども体験塾2025

現代生活学部 / 生活共創学部

子ども体験塾2025について

1. 開催の目的・概要・当日の様子

令和7年11月29日(土)、東京家政学院大学町田キャンパスにて「子ども体験塾2025」を開催しました。本事業は、独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」の助成を受け、本学が有する知的・人的資源を地域社会へ還元することを目的に実施している地域連携イベントです。

当日は、近隣地域の3歳から小学生まで111名の子どもたちと、その保護者等130名が来場しました。体験活動プログラムは「創作・自然体験」「英語・算数」「スポーツ・運動」の領域から、計9つの体験教室で構成され、子どもたちは自身の興味に合わせて教室を選択して参加しました。各教室の講師には本学教員のほか、地域で活動するプロレスラーや、国内でボッチャの普及活動に尽力されている専門家の先生にもご協力いただき、学生スタッフ約60名が運営をサポートしました。

秋晴れのキャンパスでは、教室内での学びに加え、豊かな自然環境を活かした「たき火体験」や、学生手作りの縁日「おまつりひろば」も賑わいを見せました。普段の学校生活とは異なる大学というフィールドで、専門的な学びに触れた子どもたちの生き生きとした表情や、真剣に制作に取り組む姿が印象的でした。また、学生たちが子どもたち一人ひとりに優しく寄り添うことで、会場全体が温かな交流の場となりました。



▲キャンパス内のさまざまな場所で体験教室が開かれました

2. 各教室の活動の様子

各教室では、講師の専門性を活かしたユニークな実践が行われました。2年ぶりに復活した「青空に絵をかこう！」では、森の中に張られた透明なビニールシートをキャンバスに、子どもたちが全身を使ってダイナミックに絵の具を走らせました。また、「プロレスラーに習うからだ作り」では、地元・相原プロレスの選手から直接マット運動の指導を受け、怪我をしない体の使い方を楽しく学びました。その他、本物の火を扱う「たき火でおイモを焼こう」や、多様な素材を用いた「クリスマス飾り作り」、学生と教員が手作りで道具を準備した「夢中！熱中！算数教室」、サンタクロース宛の手紙を書いた「英語楽習法」など、どの教室でも子どもたちが「本物」の素材や技術に触れ、夢中で取り組む姿が見られました

3. 参加者評価・改善点・今後の展開

実施後のアンケートでは、大学キャンパスという特別な環境での体験や、学生スタッフが子どもたちに優しく丁寧に関わる姿勢に対し、保護者から高い評価をいただきました。「子どもがのびのびと活動できた」との感謝の声が多く寄せられています。一方で、一部の説明の声かけや、安全面へのより細やかな配慮について改善を期待するご意見もいただき、次回開催への重要な課題となりました。今後はこれらのフィードバックを活かし、子どもたちが探究心を持ち、多様な人との関わりの中で学びの楽しさを実感できる場を提供します。地域と大学が協働し、次世代の成長を支える活動としてさらに発展させたいと考えています。

本イベントは、大学が持つ豊かな自然や人の力を地域へ還元する、「地域にひらかれた学びの場」として大きな役割を果たしています。子どもたちにとっては、「本物」に触れる貴重な原体験となり、教師や保育士を志す学生にとっては、座学だけでは得られない実践的な成長の機会となりました。

準備から当日の安全管理に至るまで、学生が主体的に動き、子どもたちの「やってみよう」という気持ちに真剣に向き合うプロセスは、子どもと活動を共にする際の責任感や、人を支える力を育む「生きた教育」そのものです。地域の方々と大学が手を取り合い、次世代の成長を温かく支え合うこの活動を今後も大切に育んでいきたいと思ひます。



プロジェクト概要

- 助成
独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」
- 協力
東京家政学院大学 社会連携室
- 担当教員
生活共創学部 基幹教員
- 学生
現代生活学部/生活共創学部
学生 48名
- 実施期間
令和7年11月29日

 National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

体験の風を
おこそう